宮古郷土史研究会
会報
No.263
編集・発行　宮古郷土史研究会
〒[illegible]
[illegible]
[illegible]
kyoudoshiken@gmail.com

〈七月定例会レジメ〉外間をあるく

久貝　弥嗣

七月定例会は、忠導氏仲宗根家の清掃も行いながら、大字外間の文化財めぐりを行います。同様の取り組みを過去にも一度行っていますが、私たち郷土史研究会が清掃をおこなっています忠導氏仲宗根家について理解を深めていければと考えています。

忠導氏仲宗根家の屋号は、大外間と称され、現在の大字外間一帯が、仲宗根家に関係する地域であったと考えられます。その地域内には、仲宗根家の屋敷跡の他、仲屋金盛ミャーカ、外間御嶽など関連する史跡が点在します。七月定例会では、これらの文化財の巡見を考えていますが、ここでは、外間御嶽について、改めて整理をしておきたいと思います。

『雍正旧記』の中では、外間御嶽は、その祭神を「男神称間大按司根間津のかワら」と記され、本来は、根間大按司、その子の称間津のかワら、その子の目黒盛、その子の真角与那盤、その子の普佐盛の墓所であった。その墓所で、普佐盛の弟である伊かりが龍宮界より先祖祭之法式鞍称りという祭りを授かり、その墓所に草木を植えて御嶽に仕立てた。そして鞍称りの祭りは、中古の頃までは有ったことが記されています。

外間御嶽は、現在では小さな祠が残されているばかりですが、本来は、現在の仲宗根スーパーの東側に鬱蒼とした森があり、市内でも有数の規模を誇る御嶽でした。その後の北市場の設置や、道路建設とその拡幅工事に伴い、現在にいたっています。

宮古島市教育委員会では、平成十九～二〇年にかけて、道路拡幅工事に伴う外間遺跡の発掘調査を実施しました。外間遺跡は、概ねその範囲を外間御嶽の範囲と重なります。発掘調査では、五体の人骨（成人男性三体、成人女性二体）が確認され、当該地が『雍正旧記』にあるように墓所であったことが分かりました。しかし、確認されたの人骨には、女性も含まれることから、五人の男性だけではなく、女性も含む一族の墓所であったことも考えられます。調査でこの埋葬人骨が確認された土層の上層からは、礫を敷き詰めた石列遺構も検出されています。この遺構は、御嶽との関連性が考えられていますが、同時に細かな礫層と土の層を、互層に積み重ねる地形と呼ばれる整地方法がとられています。その他にも、埋葬人骨の周囲に形成された列状の溝跡も確認されているほか、遺跡の西側では、御嶽とは異なる生活に関連したゴミ捨て場のような大型の土坑が複数確認されています。当日は、これらの調査成果の詳細についても紹介し、当時の食生活の状況なども考えてみたいと思います。

七月定例会では、外間遺跡以外にも、明治期の地籍図をみながら、実際に大字外間の地を歩き、同地における文化財をじっくりと巡見してまいります。

※七月定例会は、忠導氏仲宗根家周辺の現地にて開催となります。

大正期の外間御嶽（鎌倉芳太郎 撮影）

外間遺跡　第３号土壙墓（第５号人骨）

旧仲宗根氏庭園清掃（草刈）

忠導氏仲宗根家の清掃作業を実施します。

◆七月二十日（土）

※この「旧仲宗根氏庭園清掃作業」は、宮古島市から請け負っている事業です。この請負費は宮古郷土史研究会の貴重な運営資金の一部となっています。会員各位におきましては、清掃ボランティアに出来る限り参加のご協力をお願いいたします。

※草刈りに必要な道具（カマ・刈払機）や、軍手などをご持参ください。

※荒天時は順延予定です（定例会にて決定します）。

※会員の皆様には、何卒ご協力をお願いします。